

中央技術研究所が出張版「ENEOS子ども科学教室」を実施 ～未来の日本のエネルギーを担う子どもたちに、石油の面白さを認識してもらおう科学教室を開催～

記者各位

当社(社長:西尾 進路)中央技術研究所(所長:岡崎 肇)では、10月27日(木)、10月31日(月)、11月7日(月)の3日間、若手研究員が地元横浜市の小学校を訪問し、出張版「ENEOS子ども科学教室」を実施しましたのでお知らせいたします。研究所が主体となって子ども科学教室を開講することは、本年1・2月実施分につき、2回目となります。

「ENEOS子ども科学教室」は、科学・エネルギーそして石油について楽しみながら理解してもらうために開催された課外授業です。当社の若手研究員を中心に授業のプログラムを作成し、「石油の大切さ」「二酸化炭素や二酸化硫黄が地球環境に与える影響」「環境負荷の軽減に向けた当社の取り組み」などにつき、実験を組み合わせながら、分かりやすく説明を行いました。

参加した子どもたちからは「実験が楽しかった」などの感想があり、石油、そして石油から生まれた技術・製品について興味を持ってもらうことができました。

今後もこのような活動の他、製油所見学会や修学旅行の会社見学などの社会貢献活動を通し、未来を担う子どもたちとのふれあいの場を提供してまいります。

記

1. 日時: 10月27日(木)、31日(月)、11月7日(月) 10:40～11:25
2. 場所: 横浜市立間門(まかど)小学校(横浜市中区)
3. 対象: 5年生3クラス 約110名
4. 内容: (1)石油の大切さ※¹
 (2)二酸化炭素や二酸化硫黄が地球環境に与える影響
 「バラの花」「生卵」を酸性雨に見立てた溶液に浸し、変化する様子を観察
 (3)二酸化炭素や二酸化硫黄の軽減に向けた当社の取り組みの紹介※¹
 「ENEOS NEWヴァーゴ」、「燃料電池」の開発
 (4)構造色についての説明と環境にやさしい「構造色を作る実験」※²

※¹当社作成「環境学習ブックレット」を使って説明しました。

※²構造色とは、光の干渉を利用した発色方法です。コガネムシの羽など自然界にも多く見られ、環境負荷の少ない着色法として注目されています。構造色を作る技術は携帯電話の液晶ディスプレイなどに応用されています。

以上



中央技術研究所の概要

1. 設立 : 1941年(昭和16年)
2. 所在地 : 〒231-0815 神奈川県横浜市中区千鳥町8番地
3. 所長 : 岡崎 肇

4. 敷地面積：73,461m²

5. 事業概要

当所は燃料油・潤滑油の品質向上のための研究を行っています。また、石油が持つ限りない可能性を引き出す、多種多様な新素材の研究(炭素繊維・液晶フィルム)など新しい分野でも着実な成果を上げています。

6. 現状研究領域

1)石油研究

石油精製、燃料油、潤滑油、燃料電池

2)高機能材料研究

LCフィルム、炭素繊維複合材料、バイオプロセス

3)分析技術開発

7. 活動基本方針

1)環境・将来品質に対応した技術開発・商品開発を推進し、石油本業の競争力強化に貢献すること。

2)エネルギーの多様化に応える技術開発を推進し、新エネルギービジネスの創造に貢献すること。

3)パートナー部門との連携、外部機関の有効活用により、新規分野の事業化・事業拡大に貢献すること。

以上